

V 校内研修計画

1 研究主題・副主題

相手意識のある学び合い

～自分の思いや考えをわかりやすく伝える子をめざして～

2 主題・副主題設定の理由

本校では、学校教育目標「社会とのつながりの中で学力そして豊かな心とからだを育てる」を受けて研究を進めてきた。令和3年度は、研究主題を「相手意識をもって自分の考えを発信できる子の育成」として、国語科と他教科を関連させながら、自分の考えを発信する研究を行った。「社会のつながり」の重要性を考え、発信相手を校内にとどめるのではなく校外にも求め、児童の「自分の考えを伝えたい」という思いを大切にするとともに、相手や目的に合った伝え方を考える力の育成をめざした。昨年度の令和4年度は、前年度の研究を受け継ぎつつ、授業を通して育てたい資質・能力をより明確に、かつ端的にすることで、子ども達の学習レベルをあげていきたいと考え、研究主題を「相手意識のある学び合い」とし、この主題に迫るための副題を「自分の思いや考えをわかりやすく伝える子をめざして」とした。昨年度の研究の成果と課題は以下の通りである。

成果について

【重点1】教師が児童に考えをもたせるための手立て

見通しをもたせることで、本時の課題や単元のゴールを意識したり、既習を使って課題を解決しようとしたりする姿が見られた。

課題・発問を吟味することにより、児童の興味・関心が高まった。

個人思考の時間を確保することで、自分の考えをもてる児童やノートに書ける児童が増えてきた。

【重点2】児童が相手に分かりやすく伝えるための手立て

話し方・聞き方の指導、相手・目的の設定によって、図を指す、結論から述べるなど、工夫して発表する姿や、相手意識をもって活動する姿につながった。

発問・問い返しを行うことで、根拠や理由を引き出すことになり、児童の思考を広げたり深めたりすることができた。

課題について

【重点1】教師が児童に考えをもたせるための手立て

既習内容が定着しておらず、既習事項を課題解決の手がかりとできない児童が少なくない。そのため、児童の実態に合った手立て、個に応じたきめ細やかな指導を行う必要がある。

【重点2】児童が相手に分かりやすく伝えるための手立て

個々の伝える場を保障が不十分で、一人一人の力を伸ばすまでに至らなかった。また、交流する際の

視点を示せず、主体的な活動、児童の考えの広がり・深まりにつながらないことがあった。

これらの成果と課題を受けて今年度も、昨年度の研究主題「相手意識のある学び合い」、副主題「自分の思いや考えをわかりやすく伝える子をめざして」を引き継ぎ、日々の授業で、自分の思いや考えを友だちに納得してもらえるように分かりやすく伝える資質・能力に重点を置き、児童が主体的・協働的に学ぶ豊かな学び合いにつなげていく。そのような授業を積み重ねることで、主体的に学習に取り組む態度、よりよい社会を創っていく力の育成につながると考えている。

3. 研究の重点

【重点1】児童が考えをもつための手立て

- ・ねらいの明確化（教材の解釈・教材の中核から明確にする）
- ・学習課題の吟味（ねらいとの関係を吟味する）
- ・導入の工夫（解決の見通し・方法を吟味する）
- ・教材・教具の工夫（子どもが喰いつく素材を考える）
- ・立場を明確にさせる（他者の考えの内容把握につなげる）
- ・構造的な板書（考えを見える化する）
- ・学習形態の工夫（他者との交流を通して考えをもたせる）

【重点2】児童が相手に分かりやすく伝えるための手立て

- ・言語能力の向上を図る（学習用語・気持ちや様子を表す言葉・つなぎ言葉等を使わせる）
- ・根拠や理由を説明させる（相手が納得するように表現させる）
- ・問い返し（考えを確認する・考えを広める・思考を深める）
- ・立場の明確化（自分の思いを表出させる）
- ・学習形態の工夫（相手に伝えられるように表現させる）
- ・まとめ、ふりかえりを充実させる

4. 研究の基本方針及び研究組織

- ・授業スタイル「みかわ」の共通理解を図り、学習方法や指導方法を明確にした授業を行う。
- ・教員全員が研究授業を行う。うち2回を全体研究授業とし、他はブロック研究授業を行う。
- ・教科・領域は限定しない。
- ・全体研究会の他に、低学年ブロック（1～3年）・高学年ブロック（4～6年）・特別支援学級ブロックで研究を進める。
- ・全体研究授業2回、特別支援学級1回は、指導主事等を招いて助言を仰ぐ。

- ・指導案は、指導主事等を招く場合は本案を書く。その他は、略案でも可とする。
- ・全体研究授業は、全体で指導案検討会・授業整理会を行う。ブロック研究授業は、ブロックごとに事前研・授業整理会を行う。
- ・全体研究授業は5限に実施する。児童は5限後に下校とし、授業整理会を15時から16時30分に行う。
- ・ブロック研究授業は、5限もしくは6限を行うことを基本とする。授業整理会は、5限に授業を実施した場合は14時30分から15時30分とする。6限に授業を実施した場合は15時30分から16時30分とする。
- ・授業整理会は、授業者の教室で行い、板書は活用できるよう残しておく。
- ・授業後、「授業研だより」に研究の重点と成果をまとめ、配布することで、共通実践を共有し、その後の実践につなげる。

低中特ブロック

- ・低学年ブロック：澤地・買手・林・竹村
- ・高学年ブロック：中田・川西・永井・松多
- ・特別支援学級ブロック：村上・松本・谷内

5. 今年度の研究計画

月	研究内容	授業力向上
4	全体研究会①（研究起案） ・研究内容の共通理解 ・指導案の形式の確認 ・研究授業の計画 ・授業スタイル「みかわ」についての共通理解 低高特ブロック会①（研究授業の計画）	横断的カリキュラムの作成 子どもの実態把握 学級経営案作成 授業スタイル「みかわ」についての共通理解 見合いっこ週間
5	全体研提案授業①（5年・松多） ・全体研事前研 ・全体研授業整理会	家庭学習がんばり週間①
6	低ブロック研授業①（1年・澤地） 特別支援学級ブロック①（谷内）	研究授業（学校訪問 全員）
7	低高特ブロック会②（1学期の実践の考察）	1学期の振り返りと取り組みの見直し
8	全体研究会② ・1学期の実践の考察 ・2学期の授業づくりの指針の明確化	教材研究 学力テストからの考察
9	低ブロック研授業②（2年・林） 高ブロック研授業①（5年・川西） 特別支援学級ブロック②（松本）	
10	全体研提案授業②（2年・買手） ・全体研事前研 ・全体研授業整理会 高ブロック研授業②（4年・中田）	家庭学習がんばり週間②
11	低ブロック研授業③（3年・竹村） 高ブロック研授業③（6年永井）	

12	特別支援学級ブロック研授業③（村上） 低高特ブロック会③（2学期の実践の考察）	2学期の振り返りと取り組みの見直し
1	研究紀要の作成 ・年間のまとめと研究紀要の作成 ・3学期の授業づくりの指針の明確化	家庭学習がんばり週間③
2	全体研究会③（研究総括） ・成果と課題の共有	
3	全体研究会④（次年度の研究）	

オリジナル授業スタイル「み か わ」

学習過程		時間	教師のかかわり(手立て)	めざす児童の姿
構え	授業の準備 チャームスタート	0	ノートの3ステップ (①一本線②日づけ③課題<かっこ>)	挨拶, 姿勢, 気もちよく
み つけ よう	既習の確認 問題提示・把握 課題の共有 見通しをもつ	10 (5)	【重点1】 児童が考えをもつための手立て ☐ねらいやゴールの明確化 ☐導入、教材・教具の工夫	・「あれ!？」や「どうして!？」等疑問 ・「前に習った〇〇が使いそう」「できそう」
かん がえ よう	自力解決	10 (5)	☐見通しをもたせる ☐個人思考の確保	・自分の立場をはっきりさせる ・根拠（叙述・絵・図や表・式・数直線）をもとに考える ・「他の考えはないかな」 ・これまでの学びを生かして考える
わ かり あ お う	考えの交流 全体交流 ペアやグループ交流	20	【重点2】 児童がわかりやすく伝えるための手立て ☐発問・問い返し ☐立場を明確にさせる ☐個々の表現や発信の場の確保 ☐学習形態の工夫 【重点1】 児童が考えをもつための手立て ☐見方・考え方の確認 ☐友達の考えの確認 【重点2】 児童がわかりやすく伝えるための手立て ☐論理的な表現をさせる ☐適用問題の実施	・学習用語を用いて話す ・言葉のたから箱を活用する ・つなぎ言葉を使う（つまり、例えば、もし等） ・根拠をもとに話す ・図、表、ICT、指し棒 ・一文を短くする ・わかる所まで話す ・考えをつなげる ・反応しながら聴く（質問する） ・自分の考えと比べて聴く ・友だちの考えを認め、自分の考えを広める（深める）
	まとめ		・学習でわかったことや課題に対応したまとめを書かせる ・学習用語を用いて書かせる	
	(適用問題)	(10)	・算数の場合…適用題の工夫や確実な実施	
	ふりかえり	5	・わかったこと・よかった友だちの考え・学習前とどう変わったか等を書く	

6. 研究の構想図

